2022年新春号　No.189

日本共産党 品川区議会議員 区政報告
のだて 稔史（としふみ） ニュース
事務所：品川区豊町6-2-1　TEL：03-3786-6674
区議控室：品川区広町2-1-36　TEL：03-5742-6818

区政報告についてご意見、ご要望をお寄せ下さい。

2022年
住民の願い実現へ全力
区議会一般質問を行いました

新しい年が始まりました。昨年はコロナ感染の波が繰り返され、区民生活にも様々な影響を及ぼしました。近頃、政権の危険な改憲の動きが新局面を迎えています。

本年も命と暮らしを守り、誰もが安心して平和に暮らせるよう力を尽くします。以下昨年11月の一般質問を紹介します。

▲本会議場で質問する様子

暖かみある商店街を壊す戸越公園駅周辺の超高層再開発計画は中止を

戸越公園駅周辺では20階以上の2棟を含む16棟の高層ビルが立ち並ぶ計画が進められています。

工事中の19番地区（23階建て）に続く2棟目が戸越5丁目10番地区。既に再開発準備組合が発足し、19番地と同規模のタワーマンションが計画されています。

住民からは「ビルになったら暖かみのある商店街がなくなり、風も強くなり住みにくくなる」との声が寄せられます。

私は暖かみある商店街を壊す10番地区再開発の中止を求めました。区は「29号線との一体整備により、商店街機能の維持・活性化等を図るものであり、計画の中止を求めません」と答弁。住民の願いに背を向けました。

地域に親しまれた商店街や暮らしを守るために引き続き全力をあげます。

ウラへ続く

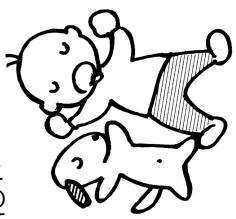
のだて稔史プロフィール
1985年品川区生まれ、36歳。八潮北小、八潮中、都立雪谷高校、東洋大学工学部建築学科卒。建築設計事務所で6年間働く。2015年4月初当選。戸越5丁目在住。家族は両親と兄。ジブリ映画、バドミントン、テニスが好き。

気候危機の打開は待ったなし
石炭火力、原発は廃止し、省エネと再エネへの転換を

地球温暖化により世界で大規模な森林火災や50℃を超える熱波などが発生。日本でも台風の大規模化、何十年に一度とされる豪雨災害が毎年発生など地球規模の非常事態。打開には２０３０年までに省エネと再生可能エネルギーの抜本拡充でＣＯ２排出の50％以上削減が必要です。

ＣＯ２排出の多い石炭火発と再エネ拡大を妨げる原発の廃止、削減目標の上積みを国に求めるべきと質問。区は「エネルギー政策は国の責任」と答弁。遅れた政策は地方自治体も意見を言うべきです。

また区の２０３０年度削減目標を50％以上へ引き上げること、具体的な排出削減計画を策定し１年毎の検証を求めました。区は「来年度予定の品川区環境基本計画の見直しで検討」と必要性を認めました。



羽田新ルートは直ちに中止し、従来の海上ルートに戻せ

戸越１丁目の方から「静かな住宅街に突然新ルートの実施。死ぬまで続くのかと思うと本当に嫌」と切実な声。声を届け、羽田新ルートの中止を求めました。

昨年12月、第22回新ルート中止を求めるパレードが大井町駅周辺にて１２０名超の参加で開催。共産、ネットの各区議もアピールしました。

▲コールなしのサイレントで実施

コロナ禍の今、高すぎる国保料は来年こそ引き下げを

品川区ではコロナ特例減免が、既にコロナで所得減の２０２０年からさらに３割減でないと対象にならず、区内のクリーニング屋さんは「コロナでＹシャツやおしゃれ着等が大幅減。昨年は助かったが今年は減免の対象外」と切実な声。東大和市ではコロナ前の２０１９年との比較も減免対象にしています。

コロナ前と比較して保険料を減免するよう求めました。区は「要件の緩和は国で実施されるべき」と答弁しました。

またコロナ禍の続く来年こそ高過ぎる国保料を引き下げるべきと質問。区は「引下げは考えていない」と答弁。区民に冷たい姿勢が明らかになりました。

◆◇◆

区内ではリニア新幹線等も含め大型開発が目白押しの一方で、社会保障は切り捨てられています。命と暮らしを守る区政へと変えるために本年も頑張ります。